

スポーツチームにおけるサステナビリティ活動と情報開示

－欧州と日本の比較分析と活動が与える影響力の解明－

福本 陽大

指導教員 大森 明

要旨

本研究では、スポーツチームにおけるサステナビリティ活動に焦点を当て、欧州および日本のスポーツチームにおける活動を比較するとともに、これらの活動が財務パフォーマンスやファンエンゲージメントに与える影響について解明することを目的とする。こうした研究を行う背景としては、スポーツ界においてサステナビリティへの関心が深まってきたことが挙げられる。

近年、サステナビリティへの関心が社会の様々な分野において高まりを見せている。企業は環境保全や社会的責任を果たすために、サステナビリティ活動を積極的に行うなど、企業経営は、単に利益を追求することだけにとどまらず、サステナビリティ活動を通じて、社会に貢献するための責任を果たす役割が求められるようになってきたのである。

このような取り組みは一般企業だけでなく、スポーツ界においても普及し始め、特に欧州では、スポーツ界においてもサステナビリティへの意識が高く、取り組みが活発化している。海外のプロサッカーリーグであるイギリスのプレミアリーグやドイツのブンデスリーガでは、リーグ組織が主導し、所属する各チームに対して、サステナビリティ活動の実施や情報開示を義務付け、詳細な評価基準を設けるなど、体系的な枠組みが確立されている。

一方、日本のスポーツチームにおいてもサステナビリティ活動は一部実施されてきているものの、欧州のような統一的な方針や評価基準の策定、情報開示の整備は十分ではなく、取り組みが遅れていると指摘されている。

こうした背景に注目し、本研究では欧州と日本のサッカークラブを分析対象として、主に以下に記す3つの分析を行うことで、日欧におけるそれぞれの特徴や違いを明確にし、これらの活動が与える影響力を実証的に分析し、スポーツ界におけるサステナビリティの意義を明らかにすることを試みた。

1つ目は、欧州と日本の各スポーツチームにおける、サステナビリティ情報の開示状況の

比較分析である。分析結果によれば、ブンデスリーガやプレミアリーグでは、環境問題に関する積極的なサステナビリティ活動の情報開示が行われており、サステナビリティレポートの発行も多く確認された。一方で、日本ではこれら欧州の主要リーグと比較して、十分な情報開示が見られなかった。ただし、欧州内においても一様ではなく、フランスのリーグアンにおける情報開示の程度は、日本以下であることが明らかとなり、欧州内でもリーグによって情報開示の取り組みに違いが存在していることが確認された。

2つ目は、サステナビリティ活動の内容を定量的に比較するため、各スポーツチームの活動をスコアリングし、日欧間の違いを可視化した。分析結果によれば、欧州では、環境問題全般に対して幅広く活動が行われているのに対し、日本では特に廃棄物に関する取り組みに積極的なクラブが多い傾向が見られた。このことから、欧州と日本のスポーツクラブでは、サステナビリティ活動の目的や優先課題に違いがあることが示唆される。

3つ目として、スポーツチームのサステナビリティ活動および情報開示が与える影響を明らかにするため、3つの仮説を設定し、回帰分析を実施した。仮説は「①積極的なサステナビリティ情報の開示は財務パフォーマンスに正の影響を与える」、「②積極的なサステナビリティ情報の開示はファンや観客数に正の影響を与える」、「③財務安定性が高いチームは積極的なサステナビリティ活動に正の影響を与える」の3つである。分析結果によれば、積極的にサステナビリティ活動を行っているクラブは、観客動員数に有意な正の影響を与えることのみが検証できた。これは、クラブによる積極的なサステナビリティ活動やファンとの交流イベントがファン層の拡大を促進し、観客動員数の増加につながる可能性を示唆している。

本研究は、企業一般におけるサステナビリティ活動の影響に関する先行研究が多数存在する一方で、スポーツチームを分析対象とした研究が少ない点から、学術的な貢献が期待される。また、特に日本のスポーツチームにおいて、サステナビリティ活動を積極的に推進する意義を示すとともに、今後の取り組むべき姿について示唆するものである。

キーワード

スポーツチーム、サステナビリティ、財務パフォーマンス、ファンエンゲージメント